

岩城山岳通信 第37号

目次

巻頭言「憧れの山への挑戦」	八尾寛支部長	2~3 頁
定例役員会報告 (6月・8月)	事務局	3~8 頁
山行報告		
☆梅雨払い山行(仙台カゴ・白髪山)	千石信夫	8~10 頁
☆個人山行(鹿島槍ヶ岳~五竜岳)	八尾 寛	10~14 頁
☆夏山山行(白馬岳~蓮華温泉)	石川弘子	14~21 頁
行事報告		
☆第45回日本登山医学会学術集会	千葉正道	22 頁
☆納涼ビールパーティ&支部名誉会員授与式	鳥山文蔵	22~23 頁
今後の行事予定	事務局	23 頁
編集後記	事務局	23 頁

巻 頭 言 憧れの山への挑戦

支部長 八尾 寛

2025年の定例夏山山行は、8月9日から12日の日程で北アルプス・白馬岳から朝日岳へ縦走するプランで実施されました。山の日3連休をはさんだ日程、白馬大雪渓コース、蓮華温泉など、若手会員の皆様にぜひ参加していただきたいとの思いがありました。しかし、ふたを開けてみると、80歳を筆頭に、75, 73, 72, 61の高齢者中心の登山になりました。10日の朝日小屋を予約した際には、清水ゆかり管理人から、「大丈夫ですか？」と念を押されました。白馬山荘から朝日小屋までは、約12^{キロ}の稜線歩き、標準コースタイム7時間なので、パーティの年齢構成を心配したものと思われま



▲白馬山荘付近にて

初日は、アイゼン、ヘルメット使用で、猿倉から白馬大雪渓を経て白馬山荘まで、標高差1590^{メートル}を9.5時間で登りました。標準コースタイムの約1.5倍でしたが、事前に予測した到着時刻の1時間遅れでした。天候に恵まれたこともあります。メンバー各々の体調に合わせて、歩行ペース、休憩場所・時間などを臨機応変に配慮したことが良かったと思います。

ところが、山小屋の情報によれば、翌日の天気は雨、風速20-30^{メートル}と大荒れになるとのことでした。11日が回復傾向らしいので、10日は、山小屋で停滞し、11日に白馬大池経由で最終目的地の蓮華温泉へエスケープすることにしました。登山計画書を提出する際、『荒天になった場合は同ルートを引き返すか、山小屋にとどまり様子を見る。白馬岳登頂後の場合、白馬大池山荘へエスケープする』と記載したのですが、まさにその通りになりました。

11日朝は、雨でしたが、風も比較的穏やかになり、無事に蓮華温泉へ下りました。ただ、レインウェアを着用していたにもかかわらず、中まで浸水したケースがありました。これは、レインウェアの防水加工が劣化していたためとわかりました。早い目に標高を下げたことが幸いしました。

今回の山行では、事前計画の重要性を再認識しました。

- メンバー構成に合わせたコースおよびコースタイムの設定
- 直前の気象状況
- 起こりうる危険の予想
- 山小屋、エスケープルートの精査
- レインウェアなど、装備の事前点検
- 登山保険への加入

後日、宮城支部最年少の川嶋想望さんが、同じ8月10日に剣岳に登頂されたとの朗報に接しました。老いも若きも、ぜひ憧れの山に挑戦していただきたいと思います。しかし、登山には危険がつきものです。事前計画をしっかり練って、安全登山を心がけてください。

白馬岳賛歌

モルゲンロート 訪れて
テント担へる 若人ら
いさ挑まんや 大雪溪
影を連ねて 登り行く

カール覆へる チングルマ
風に揺らめく ウルップソウ
乙女は知るや 花の名を
告げれば瞳 輝かせ

谷を隔つは 杓子岳
尾根を辿れば 白馬鎧
彼方に聳ゆ 劔岳
昔語りに 霧立ちて

ホール流るる ヴィオラの音
ワインに小屋の 小夜更けて
星のまたたく 空のもと
富山の町は 眠らずや

▼白馬岳から小蓮華山へ向かう夏山山行
で、登山道に佇むライチョウ

(撮影：石川弘子)



【定例役員会報告】

■令和7年6月定例役員会

日時：6月18日(水) 18時～

場所：仙台市生涯学習支援センター

出席者：八尾、千石、千葉、富塚、柴崎、高橋、草野、横山、遠藤、渡邊、石川、加藤、鳥山 計13名

八尾支部長の開会挨拶で議事に入った。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会

(1) 支部連絡会議(5/28)報告(八尾)

ハラスメントに関する話と今年度から実施している初心者向け登山講習会(参加自由)の話があった。富塚→事務局の位置づけで「事務局長」という呼称は俗称なので、来年の支部総会で規約を改正するか要検討。

(2) 令和7年度第2回(5月度)理事会議事録(富塚)：新しく交代した宮城支部長はじめ青森、静岡の3支部長が承認された。

(3) 第48回全国育樹祭記念行事参加について(八尾)：10月4、5日宮城で開催される育樹祭の記念行事として鈴田役員に「親子で七ツ森に登ろう」(11月1日)のプランを作成してもらった。育樹祭に関するのぼり旗やノベルティ等で協力してもらえるのでは。

(4) 全国ボランティア支援登山集会(11/15～16)及びアンケートについて(八尾)

東海支部が視覚障害者の方々と体験登山を計画、各支部にアンケートの依頼があり、宮城支部より毎年実施している親子登山の実施内容を伝えた。

(5) 120周年記念事業海外招請応募について(富塚)：宮城支部から希望した「中華民国山岳協会」は、本部の意向で「中華台北山岳協会(C T A A)」となる。招待者は2名。

(6) 120周年記念展示用で「山の天気ライブ授

業」の写真依頼について(富塚)

令和5年6月に蔵王町で開催した「山の天気ライブ授業」講師の猪熊隆之氏より、集合写真や授業写真の依頼があり、10枚ほど提出した。

ロ) 山行集会委員会

(1) 露払い山行実施計画(6/22)について(千石)：参加申込み14名。渡邊氏と下見したら登山道は問題なかった。富塚→平澤さんのご子孫に声掛けしたら欠席するが、故人を偲んでいただき感謝しますとの言葉があった。高橋→入口が分かりにくいので「仙台カゴ入口」の看板を立てたらどうか。千石→作ってみる。

(2) 夏山山行(白馬岳 8/9～12)申込み状況(八尾)：八尾、草野、石川の3名に本日富塚夫妻が参加となり5名となる。是非、役員の方々に参加してほしい。

(3) 山行クラブ合同秋山山行(乳頭山～秋田駒ヶ岳 10/11～12)申込み状況(八尾)

現時点、宮城支部から八尾1名だが16名の参加が見込まれる。参加締切り8月9日。

(4) 山行クラブ個人山行(鹿島槍ヶ岳～五竜岳 7/23～26)について(八尾)

現在、八尾、石川に加え東九州支部2名の参加申込みで4名。

ハ) 会報編集委員会

○宮城山岳通信第37号について(鳥山)

はじめに5月定例役員会の議事録で不体裁があり謝罪。第37号は9月の発行を目指す。高橋→「宮城山岳」と「宮城山岳通信」の掲載内容がダブって原稿が出るのはおかしい。棲み分けすべきではないか。富塚→「宮城山岳」は支部1年間の活動のまとめ、「宮城山岳通信」はニュースレターの的に支部活動を周知している。鳥山→会議報告はじめ山行報告や行事報

告はタイムリーな話題として通信に載せているが、現在、印刷発行からメール配信に変わった。紙媒体が最良とは言わないが、メール配信した通信の記録を唯一製本し発行する「宮城山岳」に再録して残すことは必要ではないか。

二) 海外・高所登山・医療委員会

○第45回日本登山医学会学術集会(6/7～8)参加報告(千葉)

「多様性から生まれる研究」をテーマに石巻専修大学で開催された。この集会上八尾支部長が参加した。

ホ) 他委員会

○自然保護・科学委員会(柴崎)

令和7年度自然保護全国集会が10月18、19日、妙高高原で開催される。講演は環境省の小林篤氏が「火打山のライチョウ」、山と溪谷社の萩原浩司氏が「妙高山・新潟県の山々」について。翌日は笹ヶ峰でフィールドスタディ。参加締切り7月30日、興味のある方は本部に申し込む。

へ) 榎有恒顕彰特別委員会

(1) 榎有恒を偲ぶ泉ヶ岳登山実施結果(千石)

49名が参加。準備期間が少ない中で、初めとしては成功したのではないか。榎氏の長男恒治様に事前に連絡、事後にも報告し感謝された。オーエンスでの展示を参加者に見学してもらい榎有恒を身近に感じてもらった。

八尾→アンケートの結果報告

(2) 本部主催「引き継がれる山岳祭」Zoom会議(5/26)オブザーバー参加報告

「協議事項」の(4)に記載

ト) 山岳古道調査特別委員会

○全国山岳古道 Zoom 会議(6/2)参加報告(富塚)：宮城支部が担当した「栗駒古道」と「二口街道」は、古道調査データにアップされ、残りの「蔵王古道」、「関山街道」、「出羽・仙台街道」はアップ準備段階にある。

チ) 宮城・山形支部交流会実行委員会

○実行委員会 Google Meet 会議(6/2)実施報告(八尾)：今回、渡邊役員に講演と翌日のガイドウォークを担当していただく。9月13、14日蔵王で開催。6月30日締切りで現時点3人の申込みと少ない。富塚→山形支部の古道調査の関係から、渡邊役員が講演する“蔵王古道”の範囲は？ 渡邊→あくまで遠刈田口に限る。

《協議事項》

(1) ハラスメント相談員の設置について

先送り

(2) 支部名誉会員の承認証書について(富塚)

発行番号と日本山岳会のマークを追加する。

高橋→証書の宛名は「様」ではなく「殿」ではないか？ 渡邊→公文書の宛名は「様」が主流。8月開催予定のビールパーティで表彰の場を設ける。

(3) 120周年記念式典への寄付について(富塚)：本部で宿泊費等諸物価高騰により募金目標300万円とした。宮城支部として3万～5万と想定、支部予算からではなく役員一人5000円程度集めたい。石川→一般会員に呼びかけないのか？ 千石→広く募ったらどうか、と意見が出て今後検討することに。

(4) 「引き継がれる山岳祭」への「榎有恒顕彰事業」の参加について(千石)

オブザーバー参加して他の山岳祭運営などを学び、榎有恒を偲ぶ泉ヶ岳登山をより充実

した事業にしていきたい。

八尾→継続的に実施するのであれば山岳祭と連携すべき。若い人に知ってもらうのが大切。柴崎→1回実施しただけで山岳祭と組むのはどうか。もっと経験を積んで足元を固めるのが先。千葉→毎年実施して知名度を上げ、地元の人たちに啓蒙していく。山岳祭に参加するのは後でもよいが毎年続ける努力が必要だ。高橋→山岳祭に参加してメリットがあるのか？ 千石→他の山岳祭の色々な情報が得られるし、多少予算の配分もある。八尾→引き続き実施することに異論はない。これから内容を深めていくことが大事だと思う。柴崎→榎さんと仙台の繋がりをもっと調べるべき。宮城支部が総力を挙げて取り組む覚悟が必要。

《審議事項》 特になし

《その他》

(1) 120周年企画「アルバータ初登頂100周年記念式典」における仙台市長メッセージについて(富塚)

日本語と英語による郡和子市長の祝辞が寄せられた。式典でカナダ山岳会より仙台市宛てのメッセージがいただけるか調整する。

(2) 東九州支部登山旅行(6/24～27)について(富塚)：焼石岳～栗駒山～船形山の縦走計画

(3) 県庁OB会仙台北部支部「榎有恒」講演要請：検討見送り

■令和7年7月定例役員会は、行事並びに山行が重なり休会とした。

■令和7年度8月定例役員会

日時：8月20日(水) 18時～

場所：仙台市生涯学習支援センター

出席者：八尾、千葉、柴崎、草野、横山、石

川、鳥山 計7名

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会(八尾)

(1) 新入会員用支部の問い合わせの確認

- ・主要アドレス ・全国の支部問合せ先
- ・全国の支部所在地

(2) 本部総会の結果について

令和7年度通常総会で6年度事業計画、6年度決算報告、7・8年度役員選任の各議案が承認された。役員担務分担と各委員会名簿。尚、本部事務局長が2025年7月1日より配置され、長島泰博氏が就任。

(3) 令和7年度第3回(6月度)理事会議事録

(4) 新入会員入会のしおり

(5) 全国ボランティア支援登山集会(11/15～

16) 参加募集について・・・東海支部

(6) 令和7年度支部運営交付金について

基準会員数32名。交付金額64,000円(@2000円×32名)。令和6年度入会数：正会員2名、準会員2名→新入会員獲得報奨金16,000円(@4000円×4名) 合計80,000円

(7) プレスリリースへの記事のお願い

本部で活動を広く一般に知ってもらうため、プレスリリース配信サイト「PR TIMES」に登録した。支部で開催されるイベントや行事のPRで活用してもらいたい。積極的にPRできるように登録テンプレートを用意した。

(8) 第38回全国地区集会&関西支部設立90周年記念式典開催の案内について

10月26・27日開催。八尾支部長が参加。

(9) 海外登山団体招請事業に係る寄付のお願い

宮城支部から申請した中華民国山岳協会2名が承認された。2名の滞在費等で寄付をお願いする。9月30日まで受付。草野→宮城支部で集めた寄付金は支部で使えるのか？

八尾→全て本部に入金する。

(10) 柴崎徹会員の日本山岳会名誉会員推薦

高橋役員より本部に推薦資料を提出。長島事務局長が受理し、9月の理事会に諮るとのこと。現在、北海道、東北の各支部関係者より賛意の表明あり。

(11) 第38回東北・北海道地区集会&北海道支部設立60周年記念式典参加結果について：

東北・北海道地区の支部長会議があり、2026年は秋田で開催。また青森支部より東北・北海道ネットワークで、山行などを載せるウェブサイト立ち上げの話。費用はゼロ、各支部の投稿は自由とのこと。

(12) 現況の予算収支について(石川)

8月14日現在、通信費や消耗品費の支出が多い。差引き24万余りの黒字。

(13) 支部行事への理事派遣依頼書について

各支部の行事やイベントに本部理事の派遣を要請する「依頼書」を準備中。HPからフォームでの提出が可能になる。

ロ) 山行集会委員会(八尾)

(1) 夏山山行(白馬岳8/8～12)の実施結果

2日目以降が天気悪く、白馬山荘で1日停滞。エスケープルートで白馬大池山荘を経由し蓮華温泉に下山(「山行報告」参照)。

(2) 「山行クラブ」個人山行(鹿島槍ヶ岳～五竜岳7/23～26)の実施結果

八尾と石川、東九州支部から4名の6人で実施(「山行報告」参照)。

(3) 秋山山行(「山行クラブ」と合同「乳頭温泉から秋田駒ヶ岳」10/11・12)の応募状況

支部から八尾1人の参加。尚「山行クラブ」が実施する9/20～23の早月尾根から剣岳登山には八尾と石川が参加。

ハ) 会報編集委員会

○「宮城山岳通信」第 37 号について(鳥山)

第 37 号は 9 月上旬から中旬のメール配信予定で編集中。この後、鳥山より 6 月の定例役員会でも話し合われた機関誌『宮城山岳』と会報「宮城山岳通信」に載せる原稿の棲み分けの話があった。今回、夏山山行の報告で 2 つに載せる別々の原稿が送られた。編集担当として 1 本の原稿で構わないと思うが、ご意見を聞きたい。柴崎→2 つ書くのは大変。記録の面から言えば『宮城山岳』が主になるが、今日は出席者が少ないので、もう一回話し合っただけでなく山岳文化が大事。書くことを会員に薦めたいが、次回の役員会で再度話し合う。

二) 他委員会等

○自然保護委員会(柴崎)

10/18・19 に「2025 自然保護全国集会」が新潟県妙高市で開かれる。宮城支部から丘陵地帯に建設されているメガソーラーの件を報告する。この集会に柴崎と千葉(予定)が参加。

ホ) 榎有恒顕彰特別委員会

○榎有恒を偲ぶ泉ヶ岳登山(山岳祭)の次年度以降の取り組みについて(千葉)

来年も実施の方向で検討。但し、どんな内容、どんな方法でやるか検討中。登山の前日に記念講演会をやるとか、マナスル登頂の映画会をやるなどのプランがある。

八尾→今日報告があったプレスリリースの配信サイトを是非利用してほしい。

ヘ) 山岳古道調査特別委員会

○全国山岳古道 ZOOM 会議(8/4)参加報告(議事録)について 見送り

ト) 宮城・山形支部交流会実行委員会(八尾)

○交流会準備の進捗状況及び参加者について

9/13/14 で開催。宿泊は宮城支部 6 名、山形支部 5 名の計 11 名。14 日登山のみは宮城支部 5 名、山形支部 7 名の参加者。

《協議事項》

(1) ハラスメント・ガイダンス配布について

このガイダンスは支部グーグルサイトで閲覧できる。配布方法については、来春の「総会資料」や機関誌『宮城山岳 30 号』を郵送する際に同封する案を検討。

(2) 「引き継がれる山岳祭」への「榎有恒顕彰事業」の参加について(千葉)：前向きに検討。

(3) 初心者向け登山講習会について

東京支部がオンラインで配信し、オンラインで机上講習会を実施している。宮城支部として利用できないか、山行集会委員会で検討。

(4) 中華民国山岳協会招請者(招請者 2 名、自費参加者 2 名)の宮城支部への招待について

担当者が欠席なので次回に。柴崎→宮城県で開催する場合、歓迎行事の原案を早めに。

(5) 支部役員会へのオンライン出席について

鈴木役員より要望があったオンライン出席は、現在の会場の仙台市生涯学習支援センター 5 階は Wi-Fi あるが、6 階はない。系統的に壁がある。八尾→当日配布する役員会資料を事前に配信し、役員会前日まで質問や要望などを受付ける対応などを検討したい。

《審議事項》 特になし

《その他》

(1) 120 周年企画事業について

a. 「アルバータ初登頂 100 周年記念式典」参加報告及び仙台市への報告(千葉)

昨日 8 月 19 日に千葉と富塚で仙台市役所に伺い、藤本副市長にカナダで開催された記念

式典の様子を報告した。

b. 海外登山団体招請(中華民国山岳協会)結果について：前記「総務・財務委員会」の(9)を参照。

(2)東九州支部登山(栗駒山・船形山・松島四大観)旅行6/24~27の案内結果

(3)ビールパーティ(8/7)実施結果

参加者10名。パーティの席上で柴崎徹会員に宮城支部名誉会員の認定式を行なったが、認定書が届かず、仮の証書を渡した(後掲の「行事報告」参照)。

役員会終了後、本日届いた宮城支部名誉会員第1号の認定証が、八尾支部長から柴崎会員に授与され、大きな拍手が送られた。



▲名誉会員認定書の賞状



▲八尾支部長より柴崎徹会員に贈呈

【山行報告】

共益事業山行

梅雨払い山行

報告者 千石信夫

実施日 令和7年6月22日(日)

場所 仙台カゴ(1270m)、
白髪山(1283.9m)

コース 黒伏高原スノーパークジャングル・ジャングル駐車場(8:30 集合)=林道終点(9:20 発)~栗畑(10:00)~仙台カゴ入口(10:30)~仙台カゴ山頂直下(11:00)~仙台カゴ入口(12:00)~白髪山(12:50)~林道終点(14:15)=柳沢小屋で解散

参加者 千石信夫(C L)、渡邊典男(S L)、八尾寛、高橋二義、冨塚和衛、石川弘子、佐藤善武、支部友=蔭山美緒子、能勢真人、一般=佐藤、川嶋一家(5名) 計14名

集合は各自乗り合わせの上、黒伏高原スノーパークジャングル・ジャングルP5 駐車場に集合した。梅雨に入り気になっていた天候も真夏の様相で、まさに梅雨を払った山行となる。参加者は10歳から83歳までの年齢構成で、平均年齢53.7歳と記録的な“みんなの山岳会”メンバーである。

駐車場に集合後、今日のスケジュールをリーダーの千石から説明があり、ここから林道に入り柳沢小屋を越え林道終点まで行き、車を置いて登山を開始する。栗畑を經由して仙台カゴ取り付きからは、登山道はなく藪漕ぎとなることを説明した。説明が終わり高橋二義会員からは、黒伏山の岩壁を眺めながら3日間かけて中央ルンゼの初登攀した当時の思い出を話してもらった。そのあと柳沢小屋でトイレを済ませ林道終点まで移動した。



▲高橋二義会員が黒伏山岩壁登攀を説明

林道終点の駐車場には車が数台止まっていたが、我々の車は問題なく駐車できた。身支度を整え登山開始。登山道に入るとすぐに左手の社の前を通るのだが、昔あった鳥居は腐朽し倒れているままだった。ブナ林の右斜面をトラバースする道が続き、小さな沢を左に越えると素晴らしいブナ林の快適な山道となる。エゾハルゼミの声を聞きながら心地よい風を受け、ここは別天地であり快適に進む。

しばらくすると栗畑に到着、しばし休憩する。この十字路、左は最上カゴ方面、右は白髭方面、これを船形山方面の道を進む。左斜面の道を過ぎ、しばらく進むと水場がある。



▲千石氏が「仙台カゴ入口」の案内板を設置

ここが仙台カゴの取り付き場所となる。千石が持参した「仙台カゴ入口」と書かれた櫻の木の木板を取り付きのところに設置した。木片には蜜蝋を塗りつけ長持ちするようにした。これは先日の役員会にて高橋二義会員が“入口が不明確なので、入口に看板が欲しい”との意見があり即席で作ったものだが、我ながら自慢しても良いような出来栄えだった。

小休止後、これから藪漕ぎとなる準備の身支度を整え取り付いた。水場に向かって左側を回り登っていく。熊笹の多い藪を漕ぎながらだが、赤布も設置されているものの、わずかな道の跡を辿り倒木などの障害にも苦労しながら進む。やがて勾配もきつくなり岩も露出しだして藪から抜けると見晴らしがよくな



▲平澤亀一郎翁を偲ぶレリーフ

り、レリーフの岩場に到着した。レリーフ周辺は以前に来た時より樹木が密集し、随分と変化したように感じた。

ここからは私の総合判断をさせていただき、山頂までは行かないこととした。ここで昼食



▲レリーフ前で平澤翁を偲び記念写真

とし、記念撮影しレリーフを眺めて平澤亀一郎翁を偲び、下山した。取り付き点までの途中で、遅れてきた高橋二義さんに渡邊典男さんが同行し登ってきた。先に我々は白髪山に向かうことにして取り付きの登山道まで降りた。木片看板を手直しして出発。栗畑から白髪山に向かう。栗畑からは稜線沿いに登り、暫くすると視界が開け、後ろには綺麗に仙台カゴや船形山が見えはじめ、かすかにレリーフのところに高橋、渡邊両氏を見たという人もいたが私は分からなかった。



▲白髪山頂で記念集合写真

途中、花々を見ながら白髪山頂に着く。蔵王方面、船形方面、黒伏山、そしてその先の東根方面の眺めが素晴らしく眺められた。その後、同じルートを下山開始した。栗畑には先に通過した「下ります 13:25 TT. NW」とのメッセージを川嶋さんのお嬢さんが見つけてくれたので確認し、安心して下山した。

途中で二人と合流し、全員無事下山することができた。

柳沢小屋まで降り、冷たい湧水を堪能し疲れを癒やして解散した。天候に恵まれ楽しい山行でした。



▲岩肌が露出する仙台カゴ

個人山行

鹿島槍ヶ岳から五竜岳へ

報告者 八尾 寛

実施日 令和7年7月23日～25日

場所 後立山連峰 鹿島槍ヶ岳～五竜岳

コース 1日目：扇沢～柏原新道登山口～種池山荘～爺ヶ岳～赤岩尾根分岐(冷乗越)～冷池山荘(泊)

2日目：冷池山荘～布引岳(布引山)～鹿島槍ヶ岳南峰～北峰～キレット小屋(泊)

3日目：キレット小屋～ロノ沢のコル～北尾根ノ頭～五竜岳～五竜山荘～西遠見池～大遠見山～地蔵ノ頭～アルプス平駅～(ゴンドラ)～山麓とおみ駅～(バス)～白馬五竜ペンションくるみ(泊)

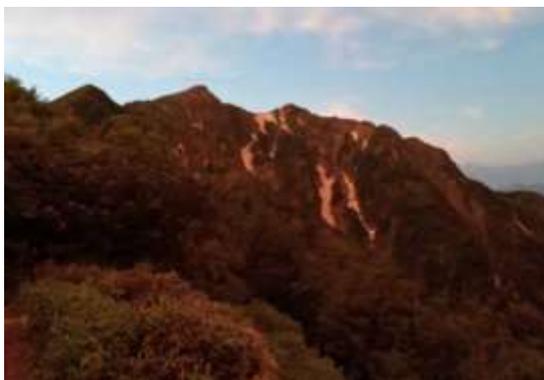
参加者 宮城支部＝八尾寛、石川弘子
東九州支部＝大前京子、下川智子、松浦一幸、
神田美代子 計6名

第1日

午前7時、扇沢駅で集合し、出発。柏原新

道の登山口(1350m)から樹林帯のつづら折りを登っていくが、暑いので30分ごとに給水休憩をとった。木々の合間から扇沢駅が見え、その奥に雪を頂いた山脈が連なっている。谷を遡った先に、稜線まで伸びる長い雪渓が見えた。針ノ木大雪渓である。第一ケルン、駅見岬、石畳、水平岬、水平道などのチェックポイントを通過すると、稜線が見えてきた。12時20分ようやく種池山荘(2460m)に到着した。ここでカレー。

13時、出発。ガスが出てきた。午後から雨が降るかもしれないので道を急いだ。爺ヶ岳南峰(2660m)、中央峰(2670m)、北峰をまき、15時18分、冷乗越に到着した。15時50分、冷池山荘(2410m)到着。午後6時ごろから雨が降りだし、稲妻が光り、雷が鳴った。夕食後に雨が上がり、鹿島槍ヶ岳の北峰、南峰、布引山がくっきりと見えた。反対側には、爺ヶ岳の三峰が堂々と聳えていた。小屋の2階の展望室からは、立山連峰や劔岳が望まれた。午後7時過ぎ、バラ色の夕焼雲が美しい夕暮れショーが始まった。雲や山の色が刻々と変わっていった。爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、そして、立山・劔にアーベントロートが訪れた。



▲冷池山荘から見上げる鹿島槍ヶ岳(左から布引山、南峰、北峰)。アーベントロートに染まる夕景

第2日

5時50分、冷池山荘を出発した。樹林帯を抜けると、ハイマツの向こうに雪を頂いた山が朝霧に浮かんでいるのが見えた。霧の中に影が映り、ブロッケン現象に遭遇した。布引山へ向け高度を上げると、爺ヶ岳の向うに北アルプスの峰々が続く、その奥に鋭くとがった山が見えた。槍ヶ岳である。その左にある切り立った山は、穂高連峰に間違いなし。立山・劔を常に左手に眺めながら、7時23分、布引山(2683m)の頂上に到着した。ぐるっと見渡す限り北アルプスの山々である。ひとしきり展望を楽しんだ。



▲朝霧に浮かぶ立山連峰と劔岳

前方に標柱が見え、8時30分、鹿島槍ヶ岳南峰(2889m)に到着した。360度遮るもののない大展望である。南には、これまでたどってきた道が見えた。布引山へ続く稜線、爺ヶ岳、さらに稜線を辿ると種池山荘が見えた。稜線は弧を描き、その先の蓮華岳まで続いている。その奥には槍ヶ岳、穂高連峰、西穂高岳が連なっている。黒部峡谷へ向かって降りていく尾根に聳えているのは、水晶岳と赤牛岳だろうか。そして、薬師岳の巨大な山塊が立山、別山、劔岳へと続いている。東側へ目を向けると、雲海の向こうに対称形の崩れた円錐形の山が浮かんでいる。浅間山である。そして草津白根山、上越国境の山々へと北へ連なり、妙高、戸隠へと続いている。北側には鹿島槍

ヶ岳北峰へと登山道が続いている。北峰から先は、一気に高度を下げ、その下のピークとピークに挟まれるように赤い屋根の山小屋が建っていた。今晚の宿、キレット小屋である。



▲布引岳にて。鹿島槍ヶ岳南峰(後方正面)と北峰(右)をバックに

キレット小屋から五竜岳への道も険しそうである。五竜岳主峰との間には、いくつものピークが立ちはだかっている。五竜岳は、東西南北それぞれに長い尾根を持つ堂々とした岩の殿堂である。そして、その向こうには、白馬三山が聳えていた。腹ごしらえをし、ヘルメットを被り、身支度を整えた。下川さん、神田さん、松浦さんの東九州支部グループは、ここまでである。彼らは、もと来た道に戻り、今晚は種池山荘に泊まる予定である。しかし、ここまでの素敵な山旅を共にし、感動を分かち合えたことは人生の喜びである。お互いの無事を祈り、9時過ぎ南峰を下り始めた。

いきなり、岩場の下りが始まり、三点支持が欠かせない。長野県側がほぼ垂直に切れ落ちている。見上げると南峰の頂上から、下川さんたち3人が手を振っている。手を振り返したが、見えただろうか。標高差100メートルを約50分で下り、10時3分、北峰分岐に到着した。ガレ場をジグザグに登り、10時15分、北峰(2842m)に到着した。振り返ると南峰から下る登山道がくっきりと見えた。

分岐点まで戻り、北峰を巻くように進むと、ふたたび急な岩場の下りが始まった。いよいよ八峰キレットの核心部である。ハシゴ場、



▲ルートのコア部 八峰キレット

クサリ場が次々に現れる岩稜帯をどんどん下ると、黒々とした岩の大きな割れ目が出てきた。キレット中のキレット、深さは数十メートルはあるか。岩に張られたクサリを頼りに、割れ目に沿って、そろそろと進み、ハシゴを渡り切ったところは、長野県側の絶壁である。ここにもクサリが張られていた。下を見る余裕はなく、緊張が続いた。ふたたびハシゴに登り、露岩の上に出た。富山県側に出て、さらに下り大きな岩を回り込むと、眼下にキレット小屋が見えた。30メートル真下である。最後の下りも慎重を要した。クサリ、ハシゴ、クサリが次々と現れた。最後は丸太の5段梯子だが、滑りやすいので要注意である。12時15分、キレット小屋(2460m)に到着した。

キレット小屋は2階建てで、1階に受付、売店、食堂、厨房、洗面、トイレ、乾燥室、自炊室などがあり、2階はドーンと大きな一間の客室である。客室は2段になっていて、縦2メートル横0.5メートルのスペースが各人に割り当てられている。

19時2分日没。太陽が沈んだのは、猫又山から毛勝山にかけての山塊である。美しい夕



▲日没。太陽が沈んだのは、猫又山から毛勝山にかけての山塊である。左は劔岳暮れショーの始まりである。キレット小屋は日陰に入ったが、太陽はまだ海に沈んではおらず、富山平野から立山・劔、そして上空の雲を照らし続けている。そのため青い空、バラ色の雲、黒い山塊のコントラストを生み出すのである。鹿島槍ヶ岳の北峰、南峰も黒々と浮き上がった。天気にも恵まれたすばらしい半日だった。

第3日

午前4時少し前に出発した。今日は、五竜岳を経て、遠見尾根を下り、テレキャビンで麓へ下りる。歩行12時間近くを見込んでいる。テレキャビンの最終が16時30分なので、それまでにテレキャビンのアルプス平駅に到着しなければならない。このコースの最低点が口ノ沢の科尔(2416m)なので、五竜岳(2814m)へは、500[㍎]の標高差がある。しかし、登り返しが繰り返すので、累積標高差は上り約908[㍎]、下り約1,869[㍎]に達する。

ヘッドランプを頼りに、クサリ場、ハシゴ場を次々と越えていく。4時20分ごろ、ようやく明るくなり、立山・劔のシルエットが浮かび上がった。そして4時30分、頂上付近が朝日に輝いた。モルゲンロートの始まりである。立山の内蔵助大雪渓や劔岳の長次郎谷雪渓がバラ色に染まる。ヘッドランプをしまい、



▲モルゲンロートの劔岳

4時40分、長いクサリ場を登る。「二段の鎖」と呼ばれる難所である。まもなく広く高い岩場の上に出た。斜度は45度以上ありそうだ。そのままの角度で、V字谷の底まで落ちていく。「三段登り」の難所である。1本目、2本目、3本目と、クサリを頼りに、そろそろと下りていく。ホールドが確保できるので、それほど恐怖を感じない。ここからは、しばらく穏やかな上り下りが続き、富山県側から長野県側へ、長野県側から富山県側へと行ったり来たりした。5時14分、戸隠山と飯縄山の奥にかかる雲の上から朝日が射し、鹿島槍ヶ岳を照らした。鹿島槍ヶ岳がだんだん遠くなり、五竜岳が近くなる。

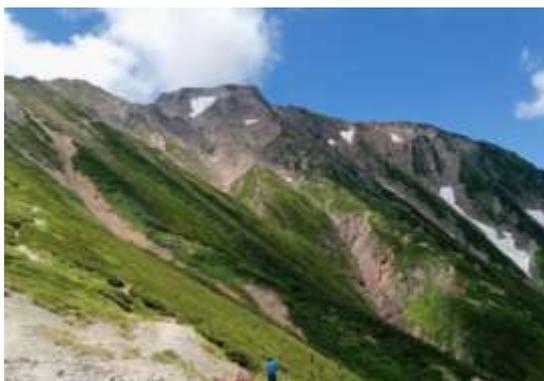
5時34分、口ノ沢の科尔(2416m)に到着した。しばらくは穏やかな道を行き、6時12分、北尾根の頭(2560m)に到着した。ふたたび岩場を上り下りしながら、五竜岳へ向かって徐々



▲17段のハシゴ

に高度を上げていった。17 段の長いハシゴ、岩に抱きつくトラバース、ヤセ尾根、ザレ場のトラバース、クサリ場、ルンゼなどが次々と現れた。「G5」、「G4」とガレ場を次々と乗り越えた。ガレ場には、花期の終わったウルップソウが群落を形成していた。

いよいよ五竜岳の真下に来た。左側の斜面は頂上付近から大きく崩壊している。登山道は、その右側のガレ場をジグザグに登っていく。空気が薄いので喘ぎ喘ぎ登り詰め、クサリを次々と伝ってよじ登ると、9時11分、五竜山荘の方向を示す道標があり、五竜山荘が真下に見えた。その向こうには、唐松岳、白馬三山が聳えている。稜線をたどり、9時22分、五竜岳の頂上に到着した。真正面には黒部峡谷を挟み、立山・剣が聳えている。鹿島槍ヶ岳の双耳峰、そして、その奥に連なる北アルプスの山々。



▲五竜山荘から見上げる五竜岳

岩場を下り、10時32分、五竜山荘(2490m)に到着した。十分な休憩をとったので、出発は10時54分になった。唐松岳への分岐を分け、白岳頂上をスルーし、遠見尾根を下り始めた。西遠見池(12時33分)、大遠見山(13時3分)、中遠見山(13時46分)、小遠見山分岐(14時14分)、地藏の頭(15時14分)と上り下りを繰り返し、15時40分にアルプス平駅に到着し、ゴンドラに乗り込んだ。

全行程の総距離約 23.0^{km}、累積標高差上り約 2,857^m、下り約 2,757^mのコースは、上り下りの繰り返しが続いた。1日目の柏原新道、3日目の遠見尾根は、日中の暑さがこたえた。しかし、3日間とも天候に恵まれ、稜線縦走及び岩稜帯縦走の醍醐味を十二分に味わった。

共益事業山行

夏山山行

報告者 石川弘子

実施日 令和7年8月8日～12日

場所 北アルプス 白馬岳(2932m)

コース 猿倉～白馬大雪渓～白馬山荘～白馬岳～小蓮華山～蓮華温泉

参加者 八尾寛(CL)、石川弘子(SL)、草野洋一、冨塚和衛、冨塚真味子 計5名

●1日目：8月8日(金) 仙台→猿倉荘

仙台から各自、長野や糸魚川経由で午後4時、白馬八方バスターミナルに集合。これから4日間のための買い出しに出たり、温泉にひと風呂浴びに行ったり。食料調達も朝風呂も済ませてきた私は、地図でみつけた神社へ無事祈願のお参りに。タクシー相乗りで17時猿倉荘到着。持参した簡単な夕食を外のベ

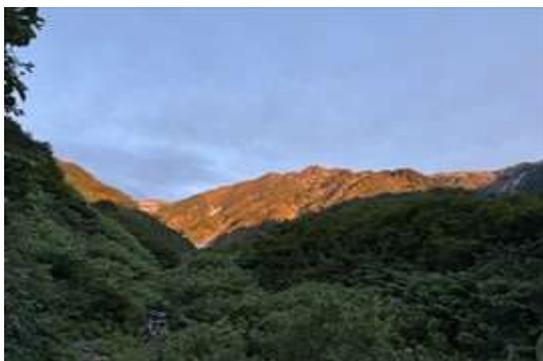


▲猿倉荘での夕食タイム

ランチでとりながら、明日以降の話が弾む。左党のKさんとTさんは焼酎でエネルギー補給。風の音を聞きながら男女別の畳部屋でゆっくり就寝。

●2日目：8月9日(土) 猿倉荘→白馬山荘

朝4時出発。ヘッドランプの灯りを頼りに山荘前から登山道に入る。15分ほどで鑓温泉への分かれ道を左に見て、長走沢の小さな木橋を渡る頃には空が白み始めてきた。前方に白馬岳から小蓮華山への稜線が見えた5時、みごとな Morgenrot。しかし、少しずつ



▲鮮やかな Morgenrot

遅れ始めていたMさんが辛そう。前日の列車やバスの冷房の効き過ぎで風邪気味かもしれないとのこと。無理する必要はない。ここで引き返すことも話したが、とりあえず白馬尻までは行くことにしてゆっくりと歩く。

5時40分白馬尻到着。『おつかれさん！ ようこそ大雪溪へ』と刻まれた大石の前で記念撮影。私が前回来たのは15年前。その時はこの大石の背後に白馬尻山荘があったが、今は水場とトイレがあるだけだ。ここで東北大の「自然と親しむ会」のメンバー39名（うち、女子2名）と出会う。彼らは昨夜ここでテント泊し、今日は白馬山荘のテント場泊まりだと言う。“自然と親しむ”という名の割にはけっこうハードそうだ。Yさんはすかさず日



▲白馬尻の大石の前で記念撮影

本山岳会の名刺を出し、入会を勧めていた。このうちの何人かでも入会してくれたら嬉しいな。Mさんの体調は持ち直してきた様子。山に入ると元気になるって、山好き「あるある」だ。



▲冷たい風が吹く白馬大雪溪を登る

6時5分雪溪の末端に到着。アイゼンを付けず、しばらくはフリクションで歩く。6時30分アイゼン装着。いよいよ大雪溪へと踏み出す。安全のため午後2時以降は入山が禁止

されているが、今は人も少なく、雪も程よく
締まって歩きやすい。上から見下ろすと、大
雪溪を登って来る人の列がポツポツと見える。
雪溪の上を吹く風が冷たくて気持ち良い。天
候は明朝から崩れる予報だが、今は紺碧の空
に白い雲が眩しい。ヘリがかなり頻繁に飛ん
でいる。このところ白馬岳周辺では遭難が続
いている。搜索などではなく、“3 連休初日
の今日、大雪溪には人がいっぱい”なんてい
う明るいニュースであって欲しい。7時50分
予想よりかなり早く左岸の秋道に移る。雪が
少ないようだ。秋道から雪溪の大きなクレバ
スを真横から見る。あれは越えられないな。
雪溪の上は涼しかったが、秋道には花が咲い
ている。どちらも魅力的だ。しばらく行くと、
見たいと願っていたウルップソウがつつまし
やかに咲いていた。

8時50分黒い大岩から流れ落ちる冷たい沢
水で顔を洗う。斜面がだんだんきつくなる。T
さんは少し頭痛がするそうだ。軽い高山病か
もしれない。ゆっくり行こう。左手に杓子岳



▲杓子岳を眺めながら

の東壁を眺め、上手から流れ落ちてくる沢水
を小さな木橋でかわしながら行くと『向って
右 白馬頂上へ 壹五〇〇米 貳時間』と刻
まれた石があった。白馬山荘までは1000^m・
1時間半、村営ホテルまでは700^m・1時間強
とある。あと一息、と思っているうちに葱平
に到着。天空のお花畑。あふれる花々。白・
黄色・薄黄緑・オレンジ・赤・紫・青・ピン
ク。日本の高山植物は、ニュージーランドな
どに比べて花色が多様らしい（工藤岳『日本
の高山植物』光文社新書、2022年刊）。

10時50分緊急避難小屋に到着。小屋裏に
冷たい沢水が流れている。20分ほど休憩。
花々に癒されながら11時40分「標高2553m」
の看板着。ベニヒカゲ（ジャノメチョウ科）
を追って遊ぶ。マルハナバチも寄ってきた。
クジャクチョウはウルップソウに止まってい
た。稜線に村営の頂上宿舎が見えてきた。左
手の赤い巨岩の擦痕は氷河の名残だそうだ。
青空を仰ぎながら最後の階段を登り詰め、12
時40分村営頂上宿舎に到着。一気に展望が開
ける。「ライチョウ調査中」というゼッケン
を付けた男性2人が双眼鏡を覗いていた。長
野県環境部からの委託業務と書いてある。こ
んな仕事があるなら、転職したいかも。さあ、



▲稜線に出ると展望開け、劔岳をバックに
白馬山荘に向けてラストスパート。稜線に出
ると劔岳から立山、黒部五郎、水晶、野口五

郎あたりまでくっきりと見えた。

13時25分白馬山荘到着。受付を済ませ、荷物を部屋（奇しくも「ウルップソウ」という名の部屋だった）に置き、スカイプラザで祝杯。窓から見える立山連峰が鮮やかだ。この景色を眺めながら、ここで生ビールを飲む



▲至福のひとつ

ことを夢にしている年下の友人がいる。子どもが大きくなったらぜひ来て欲しい。談話室で休息し、17時山小屋の夕食。メインは塩麹チキン。

19時30分スカイプラザで坪田亮子さんのヴィオラ演奏「天空のヴィオラ・白馬岳山頂の調べ」が始まる。優雅な細身の女性だが、60リットルのザックにヴィオラやドレスや靴を入れ、梅池平から登って来たという。ポスターによると本番は明後日（山の日）と明々後日の夜らしいが、今日はサービスのようだ。『風の通り道』と『バッハ無伴奏チェロ組曲第1番プレリュード』を聞いた。山小屋で聴くヴィオラの音色のなんと素晴らしいことか。終わって外に出ると、薄曇りながら満点の星空。富山の街の灯りが眼下に輝き、明るい満月も昇ってきた。何て素敵な夜だろう。

と、ここで終わらないのが山。今は素敵な



▲山荘に掲示された天気予報、明日は暴雨風夜だが、明日の天気は大荒れの予報だ。未明から雨が降り出し、一日を通して風速は15～20km/h、午後は雷雨の恐れもある。計画では白馬岳から雪倉岳を經由して朝日小屋まで行くつもりだったが、リーダーの提案の下、明日はここ白馬山荘で停滞することとした。予約を入れておいた朝日小屋の女将からも、安否を気遣うメッセージが携帯に入っていた。明日の宿泊をキャンセルする旨のメッセージを返し、翌朝再度電話することにする。明朝は早起きする必要はなくなった。夜中の星空撮影も望めない。幅60cmの細い可愛い敷布団からはみ出さないか気にしながらも、ぐっすりと眠った。

●3日目：8月10日（日） 白馬山荘で停滞

早起きする必要はないものの、自然と目は覚める。夜中から風の音が強くなっていたが、



▲白馬山荘内でゆっくりコーヒータイム

朝5時予報どおりの暴風雨だ。登山道に立つ吹き流しが狂ったように暴れている。その下を3人の登山者が白馬山頂目指して登って行く。3人だけではない。300人くらい泊っていた登山客のうち残ったのは50人くらいで、200人以上は風雨について次々と発って行った。心から無事を祈る。白馬尻で会った東北大の学生らを含め、昨日のうちに白馬大池山荘まで下って行った人たちも少なくなかった。6時自炊室で持参の朝食。灯油ストーブの天板にカップでお湯を沸かし、Mさん持参のドリップコーヒーをいただいて飲む。ゆっくり流れる時間。



▲常駐隊のお二人

8時朝日小屋に電話するものの先方の衛星電話につながらない。リーダーの助言により、白馬山荘の常駐隊(宮嶋さんという方だった)に相談すると、連絡して下さるといふ。その後、朝日小屋とメッセージのやり取りもでき、きちんとキャンセルすることができた。しかし、予約時に振り込んだ予約金1人2,500円は戻って来ない。初めからそういう約束だったが、まさか本当にキャンセルすることになるとは思っていなかった。朝日小屋は立地上キャンセルが多く、そのための自衛策なのだろう。「ぜひまたチャンスがありましたらお越しく下さい」とのメッセージ。きっと行きますよ！



▲白馬山荘にある山頂ポスト

その後はめいめい自由に過ごす。談話室で本や漫画を読んだり、写真集を眺めたり、自炊室で他の登山客とおしゃべりしたり。久しぶりにトランプをしたりもした。私は売店でウルップソウの写真はがきを購入して友人に手紙を書いた。消印は「白馬山頂」だ。11時スカイプラザで昼食。朝弁のKさん、朝弁にラーメンのTさん、昼弁のMさん、ラーメンのYさん。私は山賊バーガーに生ビールをいただきました。停滞って初めての経験だけど、悪くないなあ(その後、皆からこの山荘だから良いのだと諭されました)。

14時スカイプラザで、再び坪田亮子さんのヴィオラ演奏。私たちも優雅に赤ワインなどいただきながら鑑賞。曲目は、『アルプスの少女ハイジのオープニングテーマ』『アルプス一万尺 狂騒曲』『ロンドンデリーの歌』『夏の思い出』『風の通り道』『虹の彼方に』『川の流れるように』。ハイジのテーマには心が躍った。17時山小屋の夕食。メインはバジルチキン。2晩続きなので、味付けを微妙に変えてくれていた。18時スカイプラザで、みたび、坪田亮子さんのヴィオラ演奏。曲目は『バッハ無伴奏チェロ組曲第1番プレリュ

ード』『山小舎の灯』『雪山讃歌』『アメージンググレイス』『星に願いを』『遠き山に日は落ちて』。『山小舎の灯』は、坪田さんの友人で歌が上手という女性が先導して全員で合唱し、『雪山讃歌』は手拍子を教わってヴィオラと合奏した。聴衆の出来がどうだったかは想像に難くないと思うが、楽しいひと時ではあった。21時就寝。



▲ヴィオリストの坪田亮子さん

●4日目：8月11日(月：祝日・山の日)

白馬山荘→白馬大池山荘→蓮華温泉ロッジ

5時山小屋の朝食。メインは鯖の塩焼き。お味噌汁のネギが新鮮で抜群に美味しかった。風はまだ強いものの、昨日に比べれば弱まっ



▲見通しが良くない白馬岳山頂で

ている。今日は白馬大池山荘を経由して蓮華温泉まで降りる。朝食に出た長野名物「お焼き」を白馬大池山荘で食べるのを楽しみに、全員大切にポケットにしまう。

5時45分万全の態勢で出発。ラストだと花の写真撮影で遅れがちになる私は、リーダーの指名により今日はトップで歩く。6時5分白馬岳頂上。6時40分三国境。7時25分小蓮華山(新潟県最高峰)。8時10分船越ノ頭。あら、花の写真を撮らないとほぼコースタイムだわ。

8時45分ライチョウが登山道の左側に佇んでいる。時折、強い風が吹くが、飛ばされそうな強風ではない。ただ、雨は容赦なく顔面に吹き付ける。Kさんが濡れた岩で足を滑らせ、前のめりに右の眉あたりをぶつける。擦過傷のようだったが、血流の良い顔面であり、Kさんが抗血栓薬を服用しているということもあり、しばらくして血が流れ出す。リーダーが医療テープで応急の血止めをし、白馬大池山荘へ急ぐ。雷鳥坂では親子のライチョウが道を先導してくれた。



▲白馬大池山荘で温かい飲み物で一息

9時20分白馬大池山荘到着。ここでも常駐隊(オザワさんと名乗られた)がいらして、Kさんの処置をしてくださった。大きな絆創膏にぐるぐるの包帯巻き。「この姿で写真に写っちゃって、ずっと言われちゃうよなあ」と

こぼすKさん。雨具を通して着ているものが濡れてきていたKさんは、ここで乾いた衣服と着替え。Yさんも「汗でびしょり」、Tさんも「パンツまでびしょり」と言っていたが、2人とも寒くはないので蓮華温泉まで我慢するそうだ。Kさんの雨具は内側の防水層が劣化しているようで、トムラウシの例を持ち出すまでもないが、雨具の手入れの大切さを再認識させられた。ゴアテックスでも定期的な洗濯と撥水処理が必要なのだ。雨の中、次々と訪れる登山客のためにオープンを早めてくださった喫茶で温かい飲み物をいただき、ポケットの「お焼き」を食べて9時45分、元気いっぱいに蓮華温泉を目指す。



▲足元を川のように流れる登山道を行く

登山道に戻ると、ここから下りとなる道は川になっていた。山の斜面からは滝のような水しぶき。包帯巻きのKさんは足元が見えにくそうなので、トップのリーダーの後に続くようパーティーの並びを変更。11時20分天狗の庭で小休止。この頃には小雨で、時折薄日も射してきた。梅ノ森を抜け、雨に濡れた花々を愛でつつ、12時50分蓮華ノ森の巨木に到着。しばらくすると向かいの斜面に蓮華温泉の野天風呂の湯煙が見え始め、温泉臭も漂ってきた。心は浮き立つ。

13時25分蓮華温泉ロッジに到着。受付を済ませ、全員乾いた服に着替え、食堂で冷た

いスイカと採りたてのトウモロコシにかぶりつく。



▲登山道の真横にある「黄金湯」

15時Kさん、Yさん、私の3人で野天風呂に出かける。4つの野天風呂のうち、一番遠い風呂までは登山道を20分登らねばならない。しかも小雨。それでも行く。徒歩5分、「黄金湯」に到着。登山道の真横にあり、ここに入るには勇気か水着が必要だ。手を入れてみるとぬるい。

次の「仙気の湯」を目指す。ここがネットサイトにも良く上がっている、一番大きく一番眺めが良い人気の湯だ。男性の先客がいるため私は少し下で待つことにし、KさんとYさんが先に入る。が、先客の男性がなかなか出ない。

KさんとYさんの勧めで、私はさらにその上にある「薬師湯」を目指す。ここは女性優先で杭とロープがあり、女性が入る時は「只今女性入浴中 女性の方だけどうぞ」という看板を出して道を塞げるので安心して入れる。薄い緑色の透明の湯で、少し熱い。先客はおらず、貸切で最高の気分だ。

下のほうから「出たよー！」という声が聞こえる。KさんとYさんが、「仙気の湯」の男性客が出たことを教えてくれているのだろう。



▲女性優先の「薬師湯」

服を着て下っていくと、確かに誰もいない。道の下の方に、Yさんが差しているビニール傘の先端が見える。きっと、男性が来ないように見張ってくれているのだろう。感謝しつつ湯に浸る。ここの湯は薄く白濁している。大好きなおりがらみの日本酒に入っているみたいだ。もともとカラスの行水なので短時間でじゅうぶん満足して出る。

案の定、Yさんが道で待っている。「お二人とも帰っていいですよ」と言っておいたし、Yさんも帰るつもりだったのだが、Kさんが心配してそこに立っているとってくれたらしい。で、そのKさんは？「この下の三国一ノ湯に行っている」。三国一ノ湯に行ってみるとKさんは入っていない。手を入れてみると、ぬるま湯を通り越して温水プール



▲蓮華温泉ロッジで無事下山の祝杯

程度の温かさだ。「風邪引いちゃうよ」とKさん。3人でそのまま宿に戻る。1時間の風呂巡りだった。女性部屋で布団に横になると、温泉が身体に沁みていくようだ。

17時30分ロッジの夕食。メインのローストポークで祝杯だ。いろいろあったけど、みんな無事に降りてきた。初日にお参りした神社に心の中で手を合わせる。食後は自由時間。私は誰もいない豪華な談話室で、新潟限定ビール『風味爽快ニシテ』を飲みながら本を読む。贅沢な時間。21時就寝。

●5日目：8月12日(火) 蓮華温泉→仙台



▲左から雪倉岳(半分切れている)～赤男山～朝日岳～五輪山の山並み

6時15分ロッジの朝食。大豆カレー食べ放題。食堂の窓から、歩くはずだった雪倉岳から朝日岳の稜線と五輪尾根が見える。ぜひまた来よう。

8時ロッジのご主人に見送られて出発。8時15分に出たバスは定刻9時15分平岩駅着。ここで新潟の友人に会いに行くKさんと別れる。9時55分糸魚川駅着。残りの4人もここで解散。さあ、帰ろう。ホームからは、糸魚川名産品であるヒスイのような緑白色の日本海が見えた。

【行 事 報 告】

■第 45 回日本登山医学会学術集会

海外・高所登山・医療委員長 千葉正道

2025年6月7日、8日、石巻専修大学の森口記念館で行なわれた。会長は同大学の山内武巳教授。山内先生は低酸素環境下の睡眠を中心に、登山と心身負債というテーマに取り組んでおられます。

教育文化講演では、日本のアイスクライミングの第一人者である門田ギハード(LA SPORTIVA JAPAN)が、“なりたいたい自分に近づくため、私がずっと大切にしていること”の演題で話された。

大会本部企画シンポジウムは、“低体温症一登山とマリンレジャーの比較”というテーマでおこなわれた。

公募型シンポジウムでは、“山岳医療と法律の実際”という演題で討論された。野外活動における救護体制下での診療行為、山岳医療パトロール中に医師が遭難者に診療を求められた場合の対応、山岳診療所の管理運営上の課題などについて熱い討論がなされた。討論者には、トレイルランニング大会などで多くの救護体制構築の経験を持つ救急医をはじめ、野外活動における諸問題に造詣の深い弁護士も参加していた。

市民公開講座では、山本正嘉先生が登山仕様の身体づくりの方法について、大城和恵先生は熱中症と低体温症の対策・予防法を話された。

尚、2007年の第27回今学会を宮城県蔵王町で主宰された内藤広郎先生(当時みやぎ県南中核病院長)に、学会功労賞が授与された。

学会の前後に、大川小学校の震災遺構を見学しました。裏山も整備されていました。ま

た、近くにある翁倉山に久しぶりに登りました。

○参考図書：山本正嘉著「登山と身体の科学」ブルーバックス

《追記》今学会終了後に、南米ペルーのワスカラン(6768m)に挑戦していた稲田千秋さんが不慮の死を遂げました。彼女の冥福を祈るとともに、発表された演題名と所属を付記しておきます。

- ・演題：「標高 5100mに達した 2 歳男児の一例」 稲田千秋、稲田真
- ・所属：山岳医療サポートセンター事務所・社会福祉法人緑樹会ほくと診療所

■七夕の夜 納涼ビールパーティ & 支部名誉会員 授与式

期 日 令和7年8月7日(水)

会 場 宮城野区「びすたーり榴ヶ岡」

連日、猛暑が続く中、宮城支部恒例の納涼ビールパーティは、“仙台七夕まつり”の中目^{なかび}になったことから、中心街から離れ、午後6時から宮城野区にある「びすたーり榴ヶ岡」で開催された。はじめに支部名誉会員となった柴崎徹会員に名誉会員証を贈呈する予定でしたが、証書が間に合わず、仮の証書を授与した(本証書の授与は「定例役員会報告」の8月定例役員会に掲載、参照)。



▲柴崎会員へ名誉会員証が授与される

セレモニーの後、八尾支部長が挨拶し、千石副支部長が乾杯の挨拶でアルバータ初登頂100周年記念の旅に参加した報告があり、同行した千葉、富塚各会員からも当地での歓迎振りの様子が語られた。乾杯の後、フルコース料理に舌鼓を打ち、ビールやワインの飲みながの歓談へと移る。



▲七夕の夜のビールパーティ

その後、出席者による近況報告があり、その中で八尾支部長が自作した「七ツ森の歌」を披露、全員で合唱する余興もあった。しんがりには名誉会員となった柴崎会員が自ら歩んだ山登りを振り返り、福島原発事故後、被爆を覚悟しながら福島、茨城山地での放射線調査をはじめ、妃殿下・愛子さまとのエピソードなどを紹介、最後に会員の皆様と七薬師に再び挑みたいと締めくくると、会場から大きな拍手が送られた。

午後8時半すぎ、七夕の夜の納涼ビールパーティはお開きとなった。

[参加者] 八尾 寛、柴崎 徹、千石信夫、千葉正道、富塚和衛、草野洋一、鳥田笑美、鳥田伊志、渡邊典男、佐藤俊幸、鳥山文蔵
計11名 (報告者 鳥山文蔵)

【今後の行事予定】

☆9月13日(土)・14日(日)

第9回宮城・山形支部交流会(担当：宮城)

☆9月18日(木) 9月定例役員会

仙台市生涯学習支援センター

☆10月11日(土)・12日(日) 秋山山行

乳頭温泉から秋田駒ヶ岳

☆10月15日(水) 10月定例役員会 同会場

☆10月18日(土)・19日(日)

2025年自然保護全国集会(新潟県妙高市)

☆10月26日(日)・27(月)

第38回全国支部懇談会&関西支部設立90

周年記念式典開催(大阪ガーデンパレス)

☆11月1日(土) 第16回親子登山教室

☆11月19日(水) 11月定例役員会 同会場

☆11月30日(日) 初冬山行 山域未定

☆12月6日(土) 本部晚餐会(京王プラザH)

☆12月13日(土) 宮城支部晚餐会

☆12月17日(水) 12月定例役員会 同会場

日程、場所の変更及び山域未定が正式に決定した場合、メール等で追って連絡します。

ご了承ください。

(事務局)

【編集後記】

9月に入って仙台の気温が37.4℃、観測史上最高を更新しました。今年の夏も暑かったですね。熱く燃える太陽よりも、錦秋に燃える秋が待ち遠しい今日この頃です。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵

宮城山岳通信 第37号

発行 公益財団法人日本山岳会宮城支部

発行日 2026年9月8日

発行人 八尾 寛

会報・編集出版委員 鳥山文蔵、富塚和衛

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区

岩切字畑中9-12 (富塚宅)

連絡先TEL090-2790-3771